

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・1227 NO68

校長 伊波喜一

忘れては また覚えるか 繰り返し 脳の不思議よ 二百の壁を

動物とヒトとの違いは、記憶力です。大脳生理学では、一つの事が定着するまでに200回の反復練習が必要だと言っています。はじめ脳の神経回路はつながっていません。しかし、脳を使い刺激を与えるうちに、シナプスという神経突起が枝状に回路を広げ、終いに細胞と細胞を繋げてゆきます。英単語を覚えたつもりになっても、覚えた先から忘れてしまうのは、細胞と細胞が繋がっていないからです。ある売れっ子の落語家が言うには、「師匠は何も教えてくれなかった」そうです。ただし、幕の袖から高座を見るのは禁じなかった。そこでその落語家は、師匠の話しぶりや身振りを思い返しては、寸暇を惜しんで練習しました。無我夢中で練習して、師匠に稽古をつけてもらえるようになったのは3年経ってからでした。後年、落語家は「3年もの間、師匠の語りを思い出して繰り返し練習したことで、基本の型が身についた。型が身に付くまでは難儀したが、身に付くと芸の巾が広がった」と述懐します。苦労して覚えたことは、心と体が覚えています。記憶は努力の上澄みなのです。